



図 12 PEPNet-West における高校対象の移行支援の概要

(4) California School for the Deaf, Fremont (カリフォルニア州立フリーモント聾学校)



1) 概要

カリフォルニア州立フリーモント聾学校（以下、フリーモント校）は、約 38 万㎡と大変広い敷地でギャローデット通りに面して設置されており、150 年もの歴史を持つ由緒ある聾学校である。オーロニ大学から車で行けば 15 分もかからずに着く。なお、カリフォルニア州の南北に州立聾学校が各 1 校設置されており、フリーモント校は北カリフォルニアである。南カリフォルニアに設置されている聾学校は「リバーサイド聾学校」である。

現在、フリーモント校に在籍する聴覚障害のある幼児児童生徒は合計 500 名ほどいる。また、全教職員の約半数がろう者であり、米国で ASL と英語のバイリンガル教育を先駆的に取り組んでいる。まもなく約 20 年間にわたるバイリンガル教育の実践内容や成果報告が出されるということで注目を集めている。また、子どものニーズや能力に応じて音声英語・発音、聴覚補償、読話、コミュニケーション方略の習得を指導するコミュニケーション援助も行われている。

フリーモント校は、以下の 10 部門で構成されている。①早期教育（Early Childhood

Education), ②小学校 (Elementary School), ③中学校 (Middle School), ④高校 (High School), ⑤職業技術教育 (Career Technical Education), ⑥カリキュラム及びメディアのサービス部門 (Curriculum and Media Services), ⑦キャリアセンター (Career Center), ⑧コミュニケーション部門 (Communication), ⑨体育教育 (Physical Education), ⑩児童生徒サービス (Pupil Personnel Services).



図 13 左：芸術分野で活躍した卒業生の作品 中央：学校の看板 右：時計台

そこで、どのようなキャリア準備プログラムが行われているのかについて、キャリアセンター所長の Steve Orman 氏にインタビューをお願いしてみたが、ご多忙のため、同センターのキャリアカウンセラー⁵の Wanda Witzczak 氏が対応してくださることになった。Wanda 氏はキャリアセンターで 20 年間勤務しているベテラン職員であり、米国のデフ・リーダーの一人としてギャローデット大学で講演し、ろう者の尊敬を集めている著名なろう者でもある。



図 14 フリーモント聾学校校長と

2) キャリアセンターの概要

キャリアセンターでは、聴覚障害生徒一人ひとりがフリーモント校を卒業してからの自分自身の移行プラン、例えばどのような進路を歩むか、大学や職業学校に行くか、就職するかなどについて手引きしたりサポートすることに主眼をおいている。

⁵ キャリアカウンセリングとは、就職未経験者、労働内容に満足していない労働者、ストレスを感じている労働者、失業者が転職や就職を考え、自らのキャリアを再認識したり補強するために行うカウンセリングである。なお、「日本では特に資格がなくても自称キャリアカウンセラーと名乗ることが可能だが（厚生労働省が音頭をとっているキャリアコンサルタント試験にしても 120 時間程度の研修を想定）、米国の場合、大学院の修士課程で実地インターンも含めたトレーニングでカウンセリング修士号を取った上に、スーパーバイザーの指導の下で更に数年のキャリアカウンセリング経験を持たなければ「キャリアカウンセラー」と名乗ることができない。多くの州ではカウンセラーが免許制になっており、免許の試験に合格しなければ、カウンセラーとしての活動はできない」。

(参考文献 特定非営利活動法人キャリアカウンセリング協会 HP <http://www.career-npo.org/aboutcc/oversea.html>)

現在、キャリアセンター所長の Steve Orman 氏をはじめ、オフィスアシスタント 1 名、キャリアカウンセラー 3 名、教員 4 名、WRP スタッフ 1 名（後で詳述する）、職業紹介スタッフ 1 名、アシスタント教員 2 名、手話通訳 1 名で計 14 名のスタッフを揃えている。

主に提供しているサービスは、キャリアカウンセリング、手話通訳サービス、オン／オフキャンパスでの作業経験であり、他にアラムナイ（卒業生）による移行支援サービスも行っている。

また、生徒と教員を対象に、キャリアへの啓発、一般教養とキャリア教育の統合による学校と職場との接続を助ける教育サービスも行っている。

これらサービスの財源については、カリフォルニア州教育省（California Department of Education）、カリフォルニア州リハビリテーション省（California Department of Rehabilitation）及び移行パートナーシッププログラム（Transition Partnership programs, 詳細は後述）の援助を受けている。

・移行支援サービスの概要

キャリアセンターは、聴覚障害のある高校生の進学や就職に対し、どのような流れで移行支援サービスを行っているのだろうか。

まず高校 2 年生になったら早めに自分の進学や就職についてどうするかについてキャリアカウンセラーと相談し、IPE（Individual Plan for Employment）を作成する⁶。この IPE をもとにキャリアセンター専属の VR カウンセラー⁷（職業リハビリテーションカウンセラー）に申請して必要なお金をもらえるか相談する。なお、市民権や VISA がいないために VR のお金をもらえない場合があるので、就職するために社会保障番号（SNN：社会保障法に基づいて米国で生まれた者に発行される番号）の発行を取得する必要がある。

高校生が大学進学を目指す場合は、カリフォルニア高校卒業認定試験⁸（California High



図 15 Wanda 氏と



図 16 キャリアセンター内の様子

⁶ 米国では、教育から職業リハビリテーションへの移行サービスを法的に位置づけている。IEP（Individual Education Program）が 1984 年から実施されていることを背景に、移行サービスを取り入れることで、学校から職場への連続した個別計画に基づくサービスの実施が可能になり、IPE を作成することが必要とされている。

⁷ VR カウンセラーは、移行のコーディネーターとして、この IEP に基づいて、本人、学校、行政との連携を図り、移行に必要な予算を政府に申請して交付してもらうように諮ることを行う。

⁸ CAHSEE の目的は、高校生の学力をある一定の水準まで向上させること、またその生徒が英語の読み書きと数学において高校レベルの能力があることを公証するための試験である。試験に合格

School Exit Exam, CAHSEE) にパスし、4年制大学に入るなら大学進学適性試験 (SAT, ACS) を受ける必要があるなどいくつかの厳しいステップを踏まなければならない。そこで、聴覚障害生徒の進学したいニーズに対し、レベルに関係なく学べるコミュニティ・カレッジがあることを伝えて、そこに入学して勉強してはどうかと手引きする。オーロニ大学のように支援サービスが整備されているコミュニティ・カレッジに入学することが多いが、そうでないコミュニティ・カレッジに入る場合は、支援の申請に苦慮するケースもある。聴覚障害生徒が大学や支援サービスに関する情報を獲得するために、大学見学ツアーに参加したり大学担当者がフリーモント聾学校で講演する。生徒が志望する大学へ見学や情報収集をしたい場合、その大学に手話通訳の手配をお願いするか、不可能な場合はキャリアセンターの手話通訳スタッフに依頼して同行することもできる。

一方、大学進学を諦めて就職の道を志すことになった場合は、自分の得意分野を伸ばすためのクラスをフリーモント校で受け、職場実習も経験してから履歴書を書いて志望先に提出するという流れになる。また、生徒の実態や卒業後の進路内容に応じて、交通手段の利用方法、銀行口座の開設方法、職場での振舞い方、ADA や州政府の支援サービスの内容、手話通訳サービスの利用方法、聴覚障害関係の擁護団体（州に 5,6 団体ある）の利用方法など自立や社会参加を促す支援も行う。

フリーモント校卒業生の進路状況については、Wanda 氏の長年の経験によれば、卒業生 50 名いるとすれば、10 名は 4 年制大学に進学、20 名はコミュニティ・カレッジに進学、10 名は就職したり薬物使用の問題で挫折する者、残り 10 名は重複障害があり、地域センターでサポートを継続して受けるという具合である。

・フリーモント聾学校独自の移行支援サービスの概要

ところで、米国の聾学校において、フリーモント校キャリアセンターの移行支援サービスで独自の取組と思われるものが 2 点ある。

1 つは、州リハビリテーション省と教育省との提携による移行パートナーシッププログラムであり、Transition Partner Program (TPP) と呼ばれるものである。もう 1 つは、Work Readiness Program (WRP)、これはカリフォルニア高校卒業認定試験に合格できなかった生徒を支援する就職準備プログラムである。

①移行パートナーシッププログラム (TPP) について

移行パートナーシッププログラム (TPP) は、カリフォルニア州リハビリテーション省 (California Department of Rehabilitation : CDR) と、カリフォルニア州教育省 (California Department of Education : CDE) の提携による移行支援プログラムであり、カリフォルニア州で唯一フリーモント校のキャリアセンターだけで行われている。カリフォルニア州リハビリテーション省には、聴覚障害者のためのリハビリテーションカウンセ

すれば卒業証書を得ることができる。この試験の意義は、高校卒業後の人生で必要とされる力をまだ習得していない生徒が、高校在籍期間中に習得できるように促すことにあると考えられている。試験のレベルで、英語は 10 年生レベル、数学は 6 年生と 7 年生に相当するレベルである。この試験は、10 年生 (高 1) の後半の学年から受けることができ、不合格となった科目は、その後 5 回、追試を受けることが可能 (12 年生を終えた後でも可)。

ラー（以下、リハビリテーションカウンセラー）が配属されている。フリーモント校で生徒が利用申請すれば、手話もできるリハビリテーションカウンセラーとともに移行に向けて活動することができる。通常、生徒は卒業までキャリアトレーニングを受けるが、TPPのリハビリテーションカウンセラーがいるおかげで卒業した後も2年間ほど継続して、IPE（Individual Plan for Employment）で目指している結果に到達するまで様々な支援サービスを受けることができる。2年間のうちに何らかの問題が生じたとしても、卒業生がキャリアセンターに連絡・訪問して支援を求めることができるのである。支援サービスの内容は次のとおりである。

- ・ 関心と素質に関する評価
(Interest and aptitude assessment)
- ・ 仕事を探すスキルのトレーニング
(Job seeking skills training)
- ・ 手話通訳とジョブコーチングサービス
(Interpreting and job coaching services)
- ・ 職業能力トレーニングやコミュニティ・カレッジ入学に必要な資金の確保
(Sponsorship for post high school plans including vocational skill training and college)
- ・ キャリアカウンセリング (Career counseling)
- ・ 職業紹介の支援 (Job placement assistance)
- ・ 道具、必需品、援助機器
(Tools, supplies and assistive devices)



図 17 活動の様子

また、一緒に活動しているリハビリテーションカウンセラーが、地方リハビリテーション局にいるリハビリテーションカウンセラーに卒業生への支援の引き継ぎをお願いし、IPEに基づいて進めてもらうこともある。もし生徒が4年制大学（例えば、ギャローデット大学や国立豊工科大学）に入学するためにリハビリテーションカウンセリングが必要な場合は、上記2大学に配属されているコーディネーターが担当することになる。

なお、このTPPの取組における結果（例えば、中退や離職をした者はいるのか）について10年ほど追跡調査し、州政府やリハビリテーション省に報告している。

② Work Readiness Program (WRP)について

就職準備プログラム（WRP）は、高校最終学年の後もカリフォルニア高校卒業認定試験（California High School Exit Exam, CAHSEE）を通過できなかった生徒を助けるため

に作られた。WRPが作られた背景には、次の2点に関連している。1つは、高校卒業証書なしで高校を出る聴覚障害生徒を減らしていきたいこと、もう1つは、聴覚障害生徒の移行スキルを助けることである。

WRPでは、高校最終年度の間、最終学年キャリアカウンセラー1名と就職準備プログラムコーディネーター1名と、以下の3つのプログラムからどれを選択するか検討する。各プログラムに関係があるクラスを受講する場合も、担当教員がASLで授業しているので、きちんと学ぶことができる。

①コミュニティ・カレッジのプログラム

(local community college)

②職業訓練／トレーニングプログラム

(vocational/training program)

③直接雇用

(direct employment)

また、生徒は、コミュニティ・カレッジと仕事の両方をパートタイムでかけもちしたり、地域団体（例えば、ろう者支援委託団体、高齢者グループ等）のボランティア活動に参加することなど様々なプランを立てている。また、月曜日から木曜日までの4日間の夜に、カリフォルニア高校卒業認定試験にパスするためのクラス（英語の読み書き、数学）が提供されている。

このプログラムは、18～21歳の生徒のニーズや実態にあわせて調整することもできる。例えば、問題解決への手立て、キャリアプランの形成や修正、公的交通手段の利用、予算作り、セルフ・アドヴォカシーなど。しかも、フリーモント聾学校内にある寮を20歳まで無料提供もしている。このWRPのおかげで移行準備をきちんと進めることが容易になってきたため、オーロニ大学のDPPに入学する聴覚障害学生は年6、7人程度だったが、現在では15人に増えたとのことである。

以上から、フリーモント校のキャリアセンターでは、卒業後も自立して、自分自身の考える IPE の実現化を目指して取り組めるように、州との提携による継続支援プログラムを組んで実施していることがわかった。こうした事例は、カリフォルニア州だけでなく米国全体を見ても類を見ない先進的な取組であると思われる。